

初子

湖多

四編上

外題曲五回全

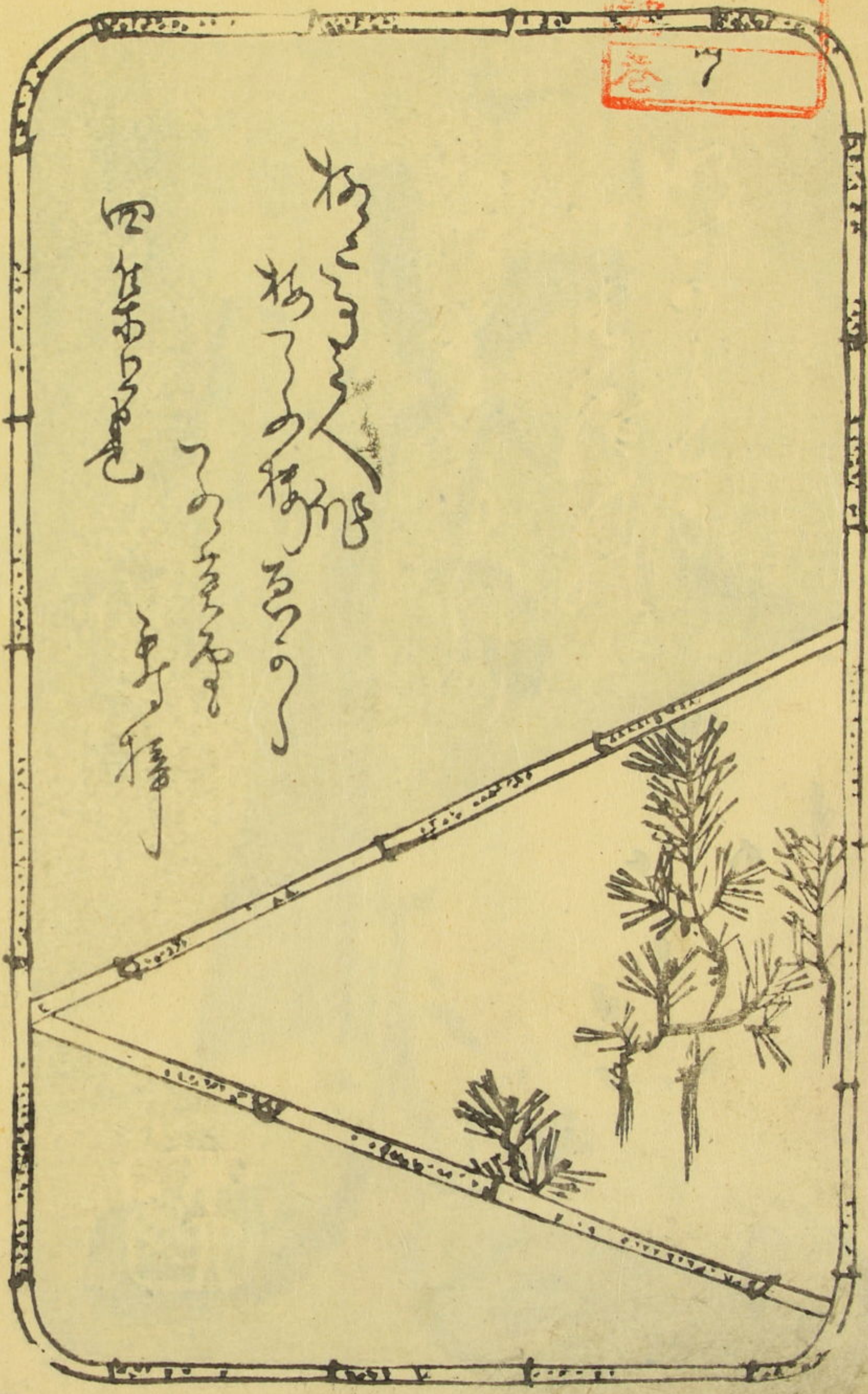
へ 13
3735
7





門 へ 12  
 巻 7

あつて人形  
 あつてのねらう  
 西のふりかへし



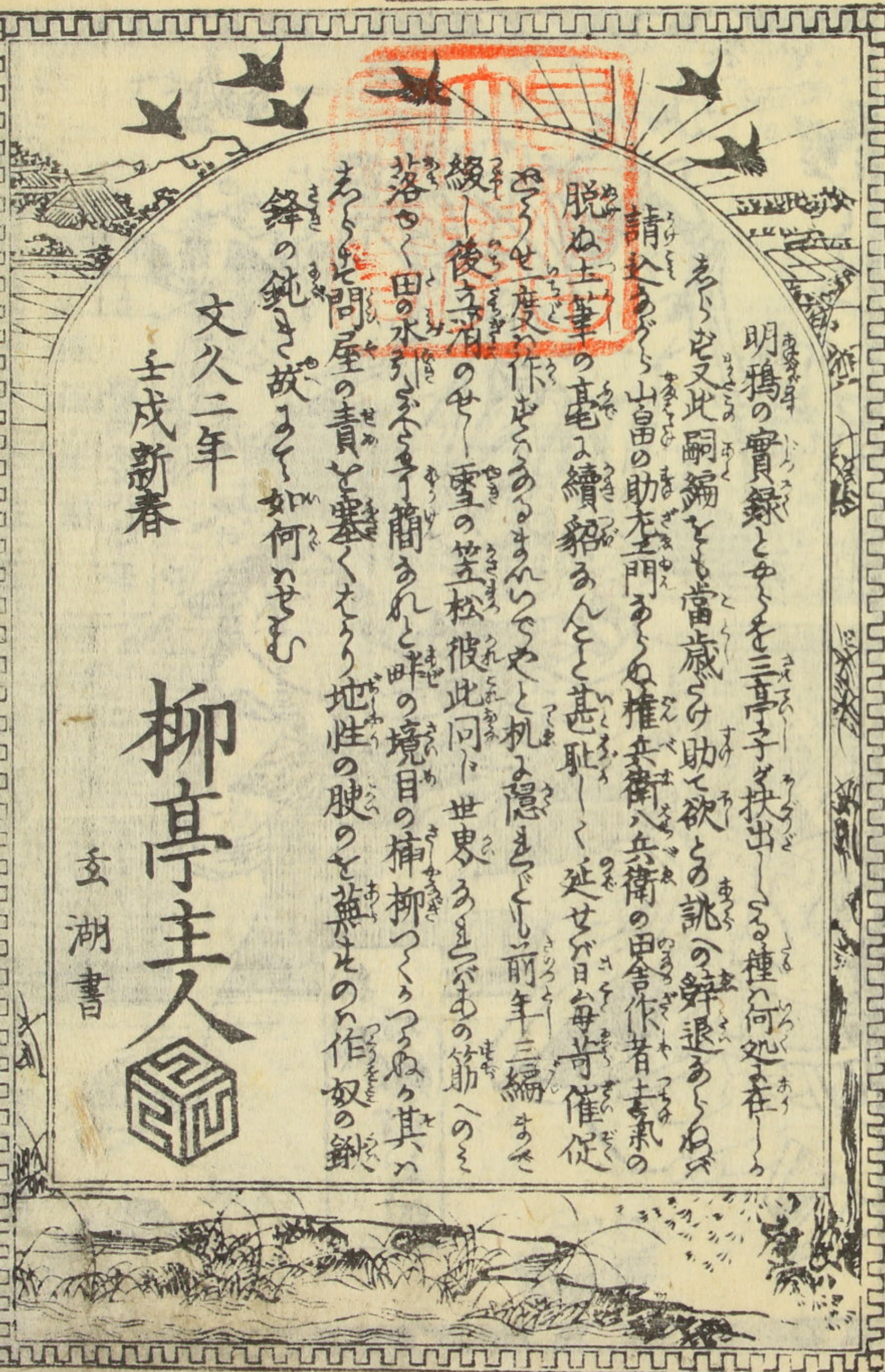
明鴉の實録とやを三亭子で扶出する種は何処に在る  
 又此嗣編とも當歳の助て欲との詔の辭退あるね  
 請込るが山富の助を門あるね権兵衛八兵衛の思舎作者土丸の  
 脱ぬ土筆の毫は續紹あんと甚耻しく延せ日毎苛催促  
 せ度作せあるまらぬやと机に隠れり前年三編まで  
 後之消のせ雪の笠松彼此同ト世思あるよあ筋への  
 落の田の水をまき簡あれと畔の境目の楠柳つらつらぬ其の  
 あつて問屋の責と塞くさうり地性の腴のを蕪との作奴の鉞  
 鋒の鈍も故よく如何せむ

文久二年

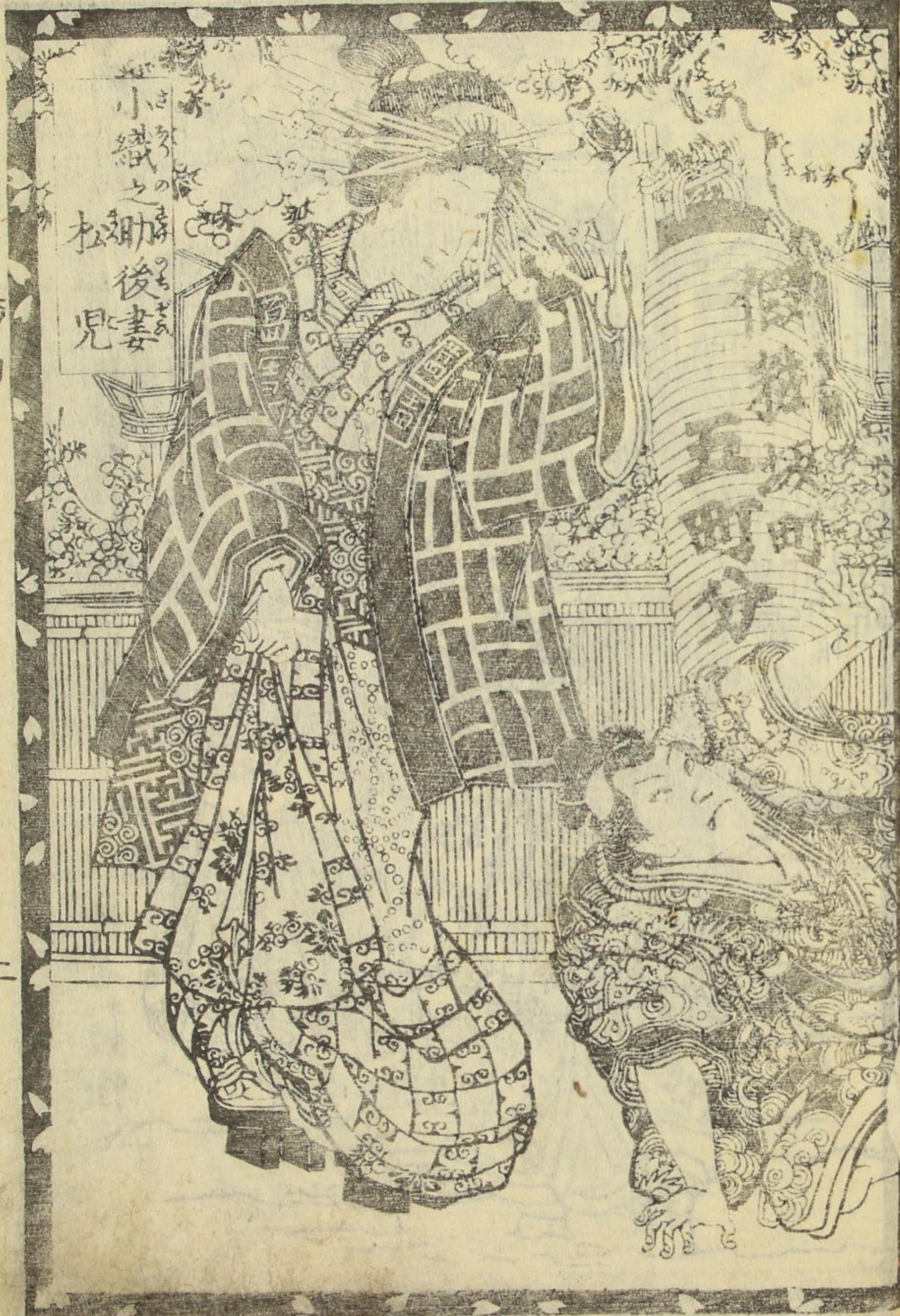
壬戌新春

柳亭主人

玄湖書







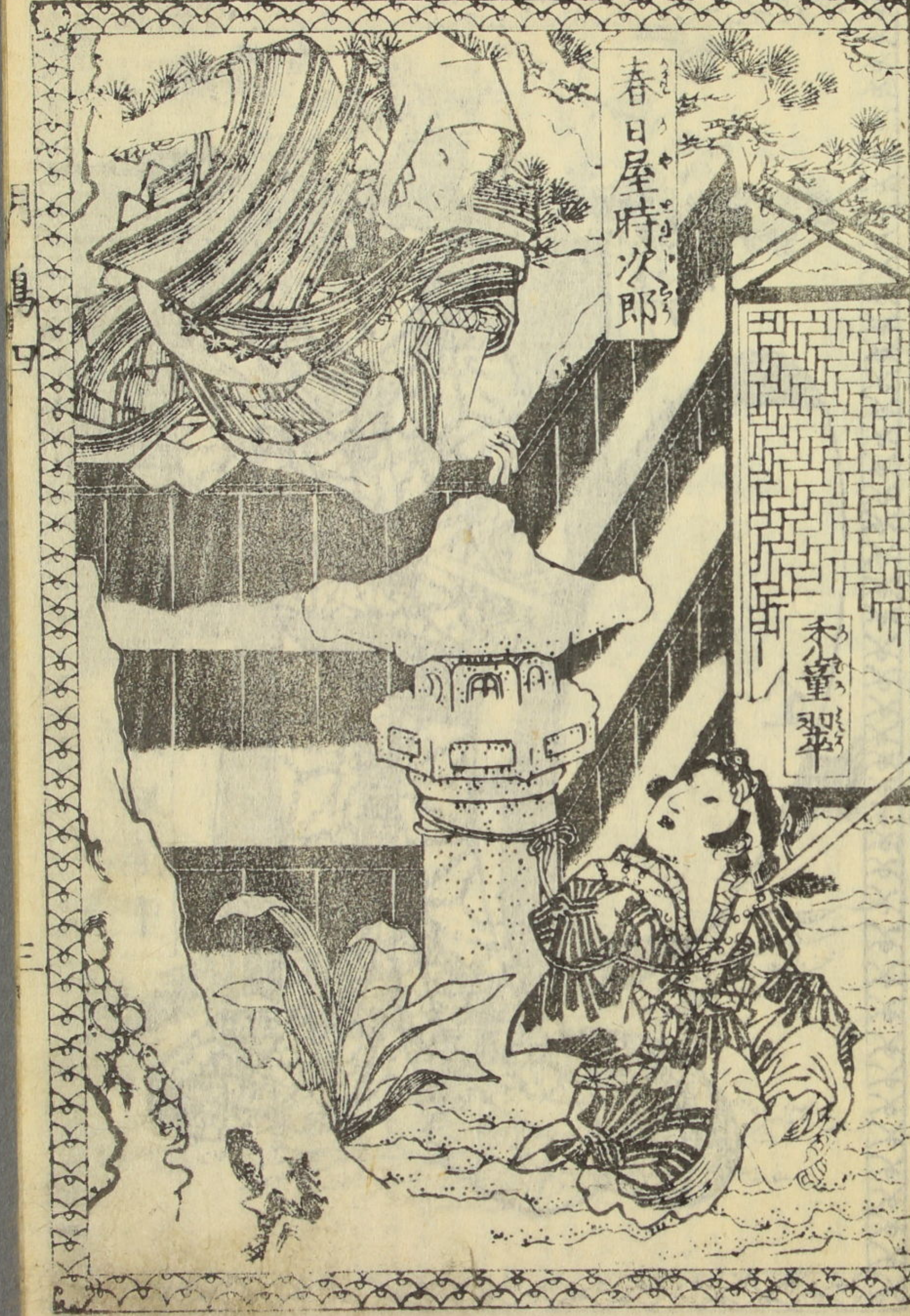
小織之助  
松助  
後妻  
兒



阿田家僕  
鷺木四郎平

無損  
大鐘良太郎





春日屋時次郎

木童翠

五  
口



泡雪大盡  
木名別あり

仲居蚊帳

日  
本  
四







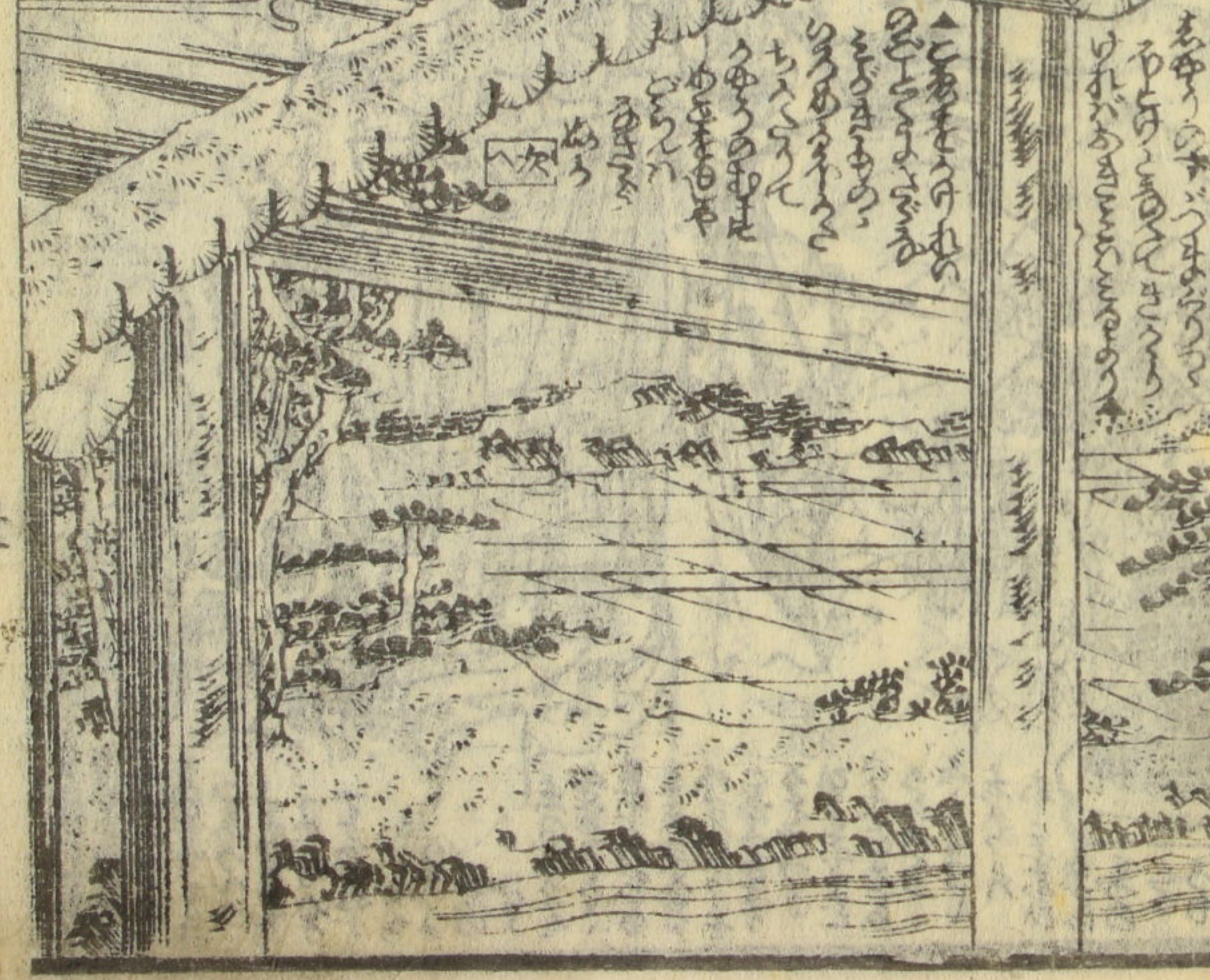
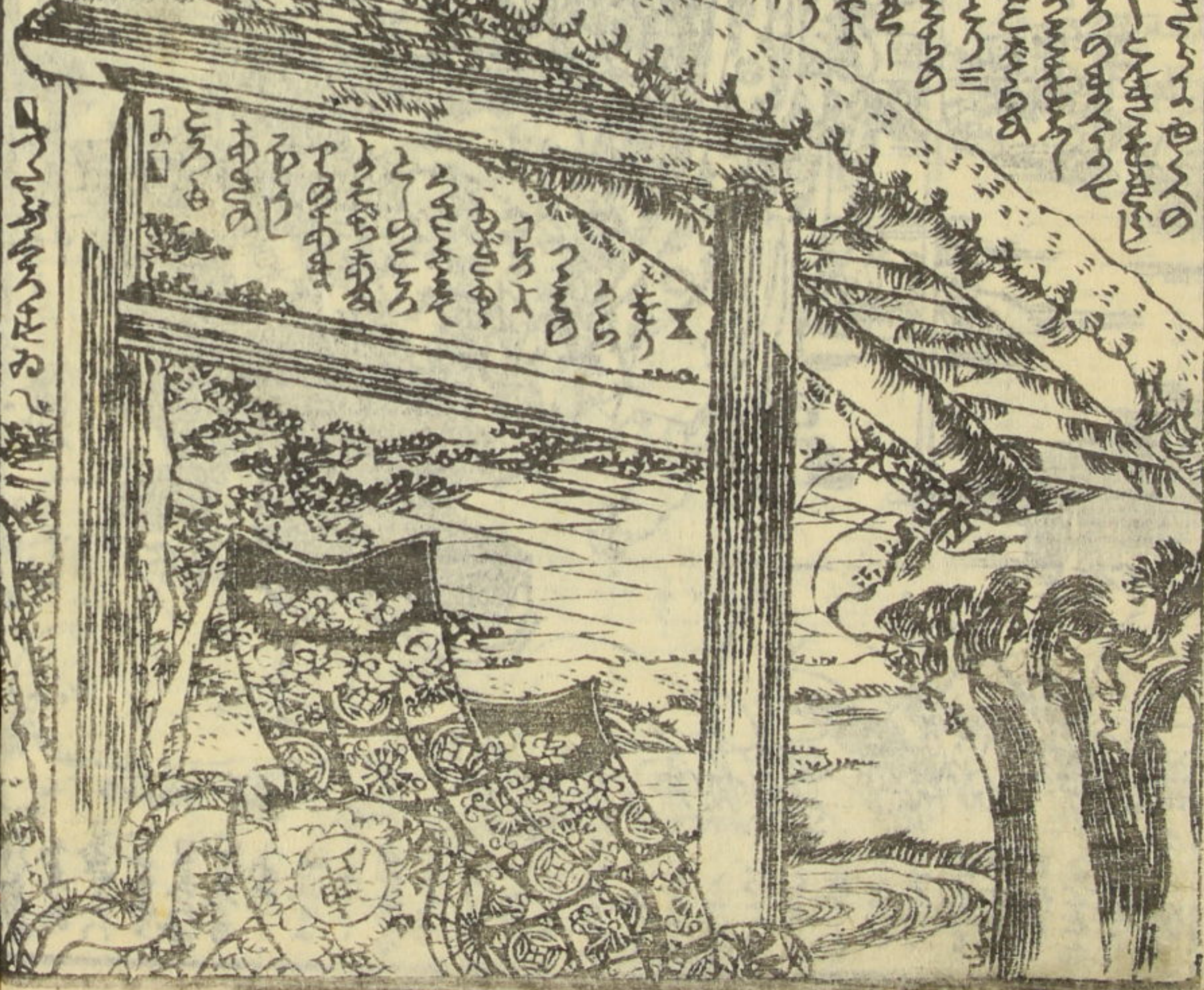








Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, arranged in vertical columns.







Handwritten text in the upper left corner of the right page, including the characters '明雅四'.

Handwritten text in the lower right corner of the right page, including the characters '明雅四'.



Handwritten text in the upper left corner of the left page, including the characters '明雅四'.

Handwritten text in the lower right corner of the left page, including the characters '明雅四'.











賣 安部康郎

種彦作



國貞画

此画と死下帳よろろし

うらやまのうらやま  
うらやまのうらやま  
うらやまのうらやま  
うらやまのうらやま  
うらやまのうらやま  
うらやまのうらやま  
うらやまのうらやま  
うらやまのうらやま  
うらやまのうらやま  
うらやまのうらやま

本家  
實母散

本方実母散の...  
中橋南傳馬町一丁目東  
千葉堂考輔製

新局九尾傳

四編  
九編

為永春水作  
梅蝶樓國貞重

鼠洞通夜譚

初編  
追々出版

柳舟種彦作  
梅蝶樓國貞重

信州鼠の里... 諸大家... 和州山辺氏の良妻の事...



